

# 小学校 外国語活動・外国語 部会

部会長名 福智町立市場小学校 校長 茅島 陽子

実践者名 大任町立大任小学校 教諭 松本 直樹

## 1 研究主題

英語を使った言語活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成  
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けての授業改善を通して～

## 2 主題設定の理由から

### (1) 社会の要請から

現在の子どもたちが社会に出る頃には、挑戦する姿勢が一層重要となることが予想される。グローバル化の進展や技術革新の加速度的な発展により、社会構造や雇用環境は大きく変化している。「世界人口白書 2024」によると、世界人口は約 81 億 1900 万人と推定される。世界には約 7,139 の言語が存在するが、インターネット上で最も使用されている言語は英語であり、ウェブサイトの約 6 割を占めるとされている。日本においても外国人労働者数は年々増加し、昨年度は約 230 万人に達しており、公私を問わず、英語を介して多種多様な背景を持つ人々と接する機会は、今後さらに日常的なものとなっていくと考えられる。

このような状況から、言語や文化の異なる人々と主体的に協働することができる児童を育成することが極めて重要である。すなわち、お互いの違いを尊重したうえで、自分の思いや考えを適切に相手に伝え、相互理解を深める資質・能力が求められている。学校教育においては、英語の習得とともに、我が国の歴史や文化への理解を深め、思考力・判断力・表現力を働かせながら積極的にコミュニケーションを図る力を育むことが求められている。英語を実際に用いた言語活動を通して、言語や文化を体験的に理解させ、日本語と英語の音声の違いに気付かせるとともに、英語の音声や基本表現に慣れ親しませる指導が必要である。さらに、目的・場面・状況に応じたやり取りの経験を積み重ね、自分の考えや気持ちが伝わる喜びを実感させることも大変重要である。そうした活動を通して、英語で自分の考えや気持ちを「伝え合いたい」という意欲をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成しなければならない。

以上のことから、「英語を使った言語活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」を目指す本研究は大変意義深いと考える。

### (2) 小学校外国語教育の動向から

学習指導要領解説（平成 29 年告示）「外国語科導入の趣旨と要点」では、「グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたり様々な場面で必要とされる」と述べられ、コミュニケーション能力育成の必要性が強調されている。一方で、「小学校からの指導改善による成果が認められるものの、学年が上がるにつれて児童生徒の学習意欲に課題が生

じる」という指摘もある。児童が各発達段階に応じた場面設定のもとで、互いの思いを伝え合うコミュニケーションの楽しさを実感しながら学ぶことが重要である。

### 3 主題と副主題の意味

#### (1) 主題の意味

「英語を使った言語活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」

##### ① 「英語を使った言語活動を通して」とは

言語活動は、実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動を意味する。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった思考力、判断力、表現力等が活用されると同時に、英語に関する知識及び技能が活用される。単元の中で、どこに言語活動が位置づけられているか計画を立てることが重要である。

##### ② 「積極的に」とは

積極的とは、物事に対し自分から進んではたらきかけるさまとされており、お互いの考えを伝え合ったり、知りたいことを相手にたずねたりすることである。また、話者が伝えたい内容を効果的に伝えるにはどうしたらよいかということを考えていくことも含まれる。さらに、既習の英語ではどうしても表現できない場合に、日本語と英語を組み合わせ使い、伝えようと努力することも積極的であるととらえる。

##### ③ 「コミュニケーション」とは

コミュニケーションは、社会生活を営む人間が互いに意思や感情、思考を伝達し合うこととされている。外国語科では、コミュニケーションを行う際、目的・場面・状況に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することと定義されている。単に語彙や文法などの知識・技能を身に着けただけでは不十分である。さらに、学習指導要領解説には、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」とあり、ただ話すだけでは十分とは言えない。場面・状況等に配慮しながら、他者と理解を深め合えるような形にしていく必要がある。

#### (2) 副主題の意味

「外国語活動における、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」

##### ① 外国語教育における「主体的な学び」とは

ア 外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに興味・関心をもつこと

イ 外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かそうとすること

ウ コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定したり、理解したりして見通しをもって粘り強く取り組むこと

エ 自らのコミュニケーションの在り方を振り返り、次の学習につなげること

② 外国語教育における「対話的な学び」とは

ア 他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い、自分の考えを広げたり、深めたりすること

イ 聞いたり話したりすることを中心として、書かれたものを読んで社会や世界の様々なことについて知ったり、他者の考え方を学んだり、自分の考えを深めたりすること

③ 外国語教育における「深い学び」とは

ア コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて考えたり、表現したりする中で、言語の働きや役割に関する理解や外国語の音声、語彙・表現、文法の知識がさらに深まり、それらの知識を実際のコミュニケーションで運用する技能がより確実なものとなるようにすること

イ 深い理解と確実な技能に支えられて、外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する力が活用されるようにすることである。これらの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを行うことで、外国語教育における学習が、児童一人ひとりの資質・能力の育成や生涯にわたる学びにつながる、意味ある学びになること

#### 4 研究の目標

第5学年の外国語科において、主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業づくりを通して、英語を使って楽しく、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成をめざす。

#### 5 研究仮説

主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを、以下の2つの着眼をもって行えば、児童は英語を使った言語活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとするようになると思われる。

**【着眼1】** 目的・場面・状況に応じた学習課題の工夫

- 日本のおすすめの場所や体験してほしいことについて、相手が日本文化に詳しくない場合を想定し、どのように伝えるとよいか考えさせる課題設定を行う。

**【着眼2】** ふり返りシートの活用

- 児童が自己の変容を自覚し、達成感を味わえるようにふり返りシートを記入させる。また、疑問や課題を記述させることで、次の学習を自ら計画する姿へつなげる。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 単元名 「Welcome to Japan」 New Horizon Elementary 5

(2) 単元目標

日本各地の魅力を伝えるために、行きたい場所やそこでしてみたいことについて聞き取ったり、グループでCMを作成し紹介したりすることができる。

(3) 言語材料

【行きたい場所】 Where do you want to go?/ I want to go to 場所.

【行きたい理由・したいこと】 Why do you want to go to 場所?/ I want to go to 場所.

What do you want to do in 場所?/ I want to go fishing./

It's exciting./ I want to eat lunch there.

【その他】 It's very colorful./ Sounds nice./ Welcome to Japan.

(4) 評価規準

聞くこと	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>Where do you want to go?/ Why do you want to go? 及び、その関連語句について理解している。</li> <li>行きたい日本の場所やその魅力についてのやり取りを聞いて、具体的な情報を聞き取る技能を身につけている。</li> </ul>
	思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本各地の魅力を知るために、行きたい場所やそこでしたいことなどについてのやり取りから具体的な情報を聞き取っている。</li> </ul>
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本各地の魅力を知るために、行きたい場所やそこでしたいことなどについての短い話から具体的な情報を聞き取ろうとしている。</li> <li>日本への理解を深めるために、世界に影響を与えている日本文化などについて聞き取ろうとしている。</li> </ul>
話すこと	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>Where do you want to go? I want to go to 場所. Why do you want to go? 及び、その関連語句について理解している。</li> <li>行きたい日本の場所やその魅力について、考えや気持ちなどを話す技能を身につけている。</li> </ul>
	思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本各地の魅力を伝えるために、行きたい場所やそこでしたいことなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話している。</li> </ul>
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本各地の魅力を伝えるために、行きたい場所やそこでしたいことなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話そうとしている。</li> </ul>

(5) 単元指導計画(8時間)

時	学習活動	評価規準
1	○行きたい場所やそこでしたいことについてのやり取りから、具体的な情報を聞き取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時では目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。</li> <li>・児童の授業中の様子を観察し、「聞くこと」についての「主体的に学習に取り組む態度」に関して加点要素が見られた場合は記録に残す場合がある。</li> </ul>
2	○行きたい場所やそこでしたいことについてのやり取りの表現に慣れ、ゴール活動への見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時では目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。</li> <li>・児童の授業中の様子を観察し、「聞くこと」についての「主体的に学習に取り組む態度」に関して加点要素が見られた場合は記録に残す場合がある。</li> </ul>
3	○行きたい日本の場所とそこに行きたい理由について、友達と紹介合う。	<p>Where do you want to go? I want to go to ____.</p> <p>Why do you want to...?, およびその関連語句について理解している。</p> <p style="text-align: right;"><b>【知識・技能】</b></p> <p>行きたい日本の場所やその魅力についてのやり取りを聞いて、具体的な情報を聞き取る技能を身につけている。</p> <p style="text-align: right;"><b>【知識・技能】</b></p>
4 本 時	○行きたい日本の場所とそこでしたいことなどについて、友達と紹介合う。	<p>日本の場所とその魅力について具体的な情報を伝えることができる。</p> <p style="text-align: right;"><b>【思考力・判断力・表現力】</b></p>
5	○紹介する地方と行きたい場所やそこでしたいことなどについて、表現をふり返ったり情報を整理したりして、観光CMの内容を考える。	<p>日本各地の魅力を知るために、行きたい場所やそこでしたいことなどについてのやり取りから具体的な情報を聞き取っている。</p> <p style="text-align: right;"><b>【思考力・判断力・表現力】</b></p>
6	○日本各地の魅力を伝えるために、観光案内CMを発表する。	<p>日本各地の魅力を伝えるために、行きたい場所やそこでしたいことなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話している。</p>

		<p style="text-align: right;">【思考力・判断力・表現力】</p> <p>日本各地の魅力を伝えるために、行きたい場所やそこでしたいことなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話そうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【主体的な学習に取り組む態度】</p>
7	○映像や音声を手がかりにして、世界に影響を与えている日本文化について考え、日本と世界の文化に対する理解を深める。	・本時では目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。
8	○映像や音声を手がかりに、日本に住む外国人について知ったり日本文化について考えたりして、日本と世界の文化に対する理解を深める。	・本時では目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。

## 7 指導の実際

### (1) 本時の主眼

必要な英語表現を使って行ってみたい場所やしてみたいことを友達と紹介し合う活動を通して、自分の英語表現や考えを広げたり深めたりすると共に、具体的な情報を伝え合うことができるようにする。

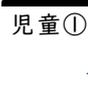
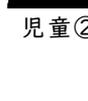
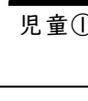
### (2) 準備物

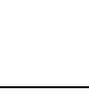
教師：New Horizon Elementary 5 のデジタル教材、パワーポイント

児童：New Horizon Elementary 5 の教科書、タブレット

### (3) 展開

時	学習活動	○指導上の留意点 ※評価規準
導入 5分	<p>1. Greeting</p> <p>児童1：How are you? 参観者：I'm fine. How about you? 児童1：I'm ok. I'm _____. What's your name? 参観者：I'm_____.</p>	○外国語の授業に慣れるため、ペア活動を設定し、一人一人が英語を話せるようにする。
	<p>めあて</p> <p>自分の行ってみたい場所を紹介しよう。</p>	○本時の学習のめあてを立てることができるように、前時ま

		での学習を想起したり、学習計画を確認したりする活動を設定する。
展開 ① 5分	<p>2. Let's Listen</p> <p>○HRT が紹介する行ってみたい日本の場所に関する説明を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>教師：Hi. I am going to talk about somewhere I want to visit during this winter vacation. Do you know this prefecture?</p> <p>児童：熊本？鹿児島？</p> <p>教師：Yes, it is. This is Kagoshima. In Kagoshima, I <u>want to eat</u> Shirokuma. It is a shaved ice-cream. I <u>want to put</u> many fruits. I also <u>want to eat</u> Kibinago. They are fish, and I <u>want to eat</u> it with a hot pot.</p> </div>	<p>○文構造や語彙を習得したり、伝えたい英語表現を参考にしたりすることができるように、スライドを使って場面の説明を行う。</p>
② 5分	<p>3. Let's Talk</p> <p>(1) 行ってみたい場所、してみたいことの英語表現を発話したり、友達の英語表現を参考にしたりしてペアで練習する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  児童① </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 250px;">Where do you want to go?</div> <div style="text-align: center;">  児童② </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="text-align: center;">  児童① </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 250px;">I want to go to Okinawa.</div> <div style="text-align: center;">  児童② </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="text-align: center;">  児童① </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 250px;">Why do you want to go?</div> <div style="text-align: center;">  児童② </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="text-align: center;">  児童① </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 250px;">I want to eat Okinawa soba.</div> <div style="text-align: center;">  児童② </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="text-align: center;">  児童① </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 250px;">Ok.</div> <div style="text-align: center;">  児童② </div> </div>	<p>○机間指導をしながら、分からない単語や固有名詞について、知っている英単語で代用するよう声かけを行う。</p> <p>(例) 色、形、味、具材を伝えることで相手に伝わりやすくなることをヒントでスライドに出す。</p>
③ 10分	<p>(2)進捗状況を伝え合い、参考になったことや、困ったことを全体で交流する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  担任 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 300px;">相手も行ってみたいようになるために、どんな質問をしたらいいですか。ペアで一度話し合ってみましょう。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="text-align: center;">  児童① </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 250px;">沖縄そばをもっと英語で説明したいな。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="text-align: center;">  児童① </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 250px;">具材は何があるかな？</div> <div style="text-align: center;">  児童② </div> </div>	<p>○子どもが自ら解決の見通しに基づいて、友達と比較しながら考えを再構築することができるように、より多くの情報を提示している児童や伝わりやすくするための方法を取り入れている児童を取り上げる。</p> <p>○次の紹介でより良い紹介がで</p>

<p>④ 15 分</p>	<div style="text-align: right;">  児童②        豚肉やネギが入っているよ。        It has pork and green onions. ということだと思うよ。     </div> <div style="text-align: left;">        会話以外で、相手により伝わりやすくする方法はありますか。     </div> <div style="text-align: right;">  児童①        ジェスチャーを加えると分かりやすいと思います。     </div> <div style="text-align: right;">  児童②        アイコンタクトもあるといいと思います。     </div> <p>4. Let's Talk 2</p> <p>○紹介に必要な英語表現を修正したり、付け加えたりして再度別のペアで、行ってみたい日本の場所について詳しく話し合う。</p> <div style="text-align: left;">  児童①        Where do you want to go?     </div> <div style="text-align: right;">  児童②        I want to go to Okinawa.     </div> <div style="text-align: left;">  児童①        Why do you want to go?     </div> <div style="text-align: right;">  児童②        I want to eat Okinawa soba.        It has pork and green onions.        Do you want to eat it?     </div> <div style="text-align: left;">  児童①        Yes!! It sounds good.     </div>	<p>きるように、非言語コミュニケーションにも焦点を当て、相手により伝わりやすくするための工夫を考えさせる。</p> <p>○学びの効果を実感したり、より多くの英語表現に触れたりできるように再度友達と練習する時間を設ける。</p> <p>※日本の場所とその魅力について具体的な情報を伝えることができる。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b></p>
<p>終 末 5 分</p>	<p>5. 本時の学習をふり返り、次時を見通す。</p>	<p>○本時の学習で学んだことを確認することができるように、ふり返る活動を設定する。</p>

8 研究のまとめ

【着眼1】目的・場面・状況に応じた学習課題の工夫

- CMづくりという明確なゴール(目的)を設定したことで、児童は必要な英語表現を主体的に取捨選択しコミュニケーションを図ろうとすることができた。また、参観者との対話の際【写真1】には、“I want to go to Fujisan.”という表現だけでは相手に伝わりにくいという実感をもち、big, beautiful, mountain, No.1などの語を自ら探す児童の姿が見られた。



【写真1】

目的を明確にすることは、伝えたいという気持ちを生み、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を高める上で有効であったと考える。

【着眼2】ふり返しシートの活用

- ふり返しシートを使った毎時間のふり返しでは、「理由の言い方がわかった」や「なんで行きたいか説明できた」などの記述が見られ、自己の変容を自覚したことや達成感を得られたことが推察される。また、次時の学習意欲や見通しにもつながり、それが授業での積極性につながったと考えられる。これらのことから、ふり返しシートの活用も大変有効であったと思われる。

2nd: Where do you want to go?	
本時のめあて	理由を英語で伝え合おう。
本時のふり返し 次時の目標	僕は紹介したい県で富士山に登りたいと言いたかったので登りたいという言葉をして嬉しかったです。理由の言い方やなんで行きたいかなどができました。次の時間に隣の言い方を知りたいです。

【資料1】

## 9 成果と今後の課題

【成果】

- 児童に明確なゴール(目的)を持たせたことで、一人ひとりが自分の力で表現しようとする意欲が高まった。そのため、必要な表現を何度もくり返し練習する児童の姿が見られた。(終末段階では、ほとんどの児童が教科書を見ずに伝え合うことができるようになった。)
- 既習表現を活用して、自分の行きたい場所をよりよく伝えようとする工夫が多く見られた。
- 参観者との対話では、「大人に伝えたい」という強い意欲が生まれ、積極的なコミュニケーションが行われた。

【課題】

- 「大仏の英語が分からない」という問いから、連想語が広がりすぎてしまった場があった。その際、「CMで伝えるべき内容に立ち返ろう」などの声かけで、課題に向かう視点に戻す必要があった。

- 単元ゴールをさらに意識させる工夫が必要である。色や形だけでは共感につながりにくいいため、You can eat … / It’s exciting. など、魅力を伝える表現の充実が求められる。

◎ 参考文献

1. “The State of the World’s Children 2024”

<https://www.unicef.org/reports/state-of-worlds-children/2024>

2. ”Ethnologue”

<https://www.ethnologue.com/>

3. 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説

[https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt\\_kyoiku02-100002607\\_11.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt_kyoiku02-100002607_11.pdf)

4. 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm)

5. 厚生労働省『外国人雇用状況』の届出状況まとめ

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_50256.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_50256.html)

---